

教員向けアクティブ・ラーニング教材 共同開発

オンライン学習サービス『スタディサプリ』と 埼玉県教育委員会が『2020年大学入試改革』に新提案

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：山口文洋）が提供するオンライン学習サービス『スタディサプリ高校講座・大学受験講座』は、国立教育政策研究所フェローの白水 始（しろうずはじめ）氏の協力を受け、埼玉県教育委員会と教員向けのアクティブ・ラーニング教材を共同開発し、7月19日（火）に記者発表会を実施いたしました。今後、学校、教育委員会などからこの教材の利用希望が入った際には、弊社より無償で提供する予定となっております。

アクティブ・ラーニングとは？ 「知識構成型ジグソー法」とは？

2020年の大学入試改革、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善など、どれだけ知識を知っているかだけでなく、それらを活用できる力を身に付けられる教育への変革が学校現場で始まっています。学校の先生方からは「担当教科でどのように取り入れられるかを知りたい」、「使用する教材の準備が大変」といった声が聞かれます。そのような授業改善に向けて、『スタディサプリ』上に共同開発した解説動画、授業で利用できる教材を搭載。教員は、いつでもどこでも視聴することができます。

○概要

アクティブ・ラーニング理解、授業利用を促進する
動画・教材を『スタディサプリ』上で視聴、ダウンロード
※利用を希望する埼玉県公立高校の教員全員にIDを発行

○アップされる内容

- ・アクティブ・ラーニングについての解説動画
 - ・「知識構成型ジグソー法」解説動画
 - ・授業実践動画
 - 数学、世界史
 - ・授業実践者へのインタビュー動画
 - ・授業で使用する教材
 - 国語、数学、理科、英語、美術、家庭科
- ※随時追加予定



国立教育政策研究所 フェロー
白水 始



東京大学 CoREF
飯窪 真也



〈宗教改革と当時の国際状況〉を理解するには
双方の概念を同時に把握する必要がある

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】

http://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

登壇者コメント（一部抜粋）

埼玉県教育委員会教育長 関根 郁夫氏

現在、我が国の教育は、大きな転換点にさしかかっております。国では、次期学習指導要領改訂の重点として、主体的で、対話的な学びの中で、深い学びを実現するアクティブ・ラーニングの視点に立った継続的な授業改善をかねております。

埼玉県では、県立高校を中心に全国に先駆けて、平成22年度から東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構と研究連携し、アクティブ・ラーニングの一つである「協調学習」を授業において引き起こしやすい「知識構成型ジグソー法」による継続的な授業改善を進めております。

この取組により、現在、埼玉県として高校教員の約20%にあたる、1600名を、ゼロベースから知識構成型ジグソー法の授業を作成・実践できる教員として育成しており、平成31年度までには、30%まで引き上げる計画です。今後、教員の自発的な授業づくりが欠かせないものとなり、それを支援する仕組みが必要です。今回、発表いたします「教員向けアクティブ・ラーニング解説動画」は、まさに、その一翼を担うものでございます。

教育委員会では持ち得ないオンライン学習プラットフォームに掲載させていただいたことが、教員がいつでも、どこでも、何度もでも繰り返し学習することが可能となりました。また、理論と授業実践とを往還させることで、授業改善のサイクルを継続的にまわしていくことができると考えています。

国立教育政策研究所 フェロー 白水 始氏

アクティブ・ラーニングとは、資料にもあるように主体的・対話的で深い学びを指すものです。わかりやすく言えば、先生ではなく子供一人一人が主体となって、周りの仲間や教科書、先生と対話しながら、自分の考えを深めていくものです。しかし、主体的に学ぶといっても好き勝手に学ぶということではなく、光合成や宗教改革、漸化式といった先生が学んでほしい内容を一人一人がしっかり理解することです。この主体性と内容理解のバランスが難しいところですが、そこが上手く行けば、子供たちが自分で見付けていった答えが実は文化的にも大事な内容なんだとわかることで、子供は答えと共にその見つけ方、つまり学び方を学ぶ—それがアクティブ・ラーニングの狙いと言えます。

ではなぜこんな学び方が必要だと言われるようになってきたのでしょうか、一つには、われわれ大人も日々アクティブ・ラーニングが必要になってきたからでしょう。つまり、職場でも市民生活でも寄れば大樹のような先生がいなくなって、我々一人一人が主体となって、周りの仲間やリソース、先達と対話しながら、自分の考えを深めていく必要が日増しに増してきているからです。教育の2020年問題もこうした変化を反映しています。しかしこういって、いかにも社会が変化した外圧で教育現場が変わらなければならないように聞こえます。そこで、二つ目の理由としては、実はアクティブ・ラーニングが人の自然な学び方に近く、学校の外で我々が自然に学ぶときに発揮しているような潜在的な学ぶ力を活用したものだからだという説明を解説動画でしています。だからこそ、日本でも数々のアクティブ・ラーニングだと認められる実践が展開されてきており、今こそ、その蓄積を基に、学び方の軸として日本中に広げようと考えられていると考えられます。こう考えると、教育の2020年問題も、子供たちにこんなに学ぶ力があるのだから、入試もこう変えてみればという小中高の現場からの提案と考えることもできるかもしれません。

今回の実践動画もほんの一部でしかありませんし、これからどんどん増殖していくと思います。解説動画を見て実践例をマネして一度やってみて終わり、ということではなく、ご自身もやってみた結果を踏まえて、再度解説を見直してみたり、実際埼玉県の学びのネットワークに参加してみたりしていただくと大変うれしいです。その意味で、先生方が使って育ててよりよいものにしてくださるものとして今回の動画が役立てば幸いです。

弊社代表取締役社長 山口 文洋

弊社は小学4年生～大学受験中の学生が学びに必要な教材を提供しております。そして、今我々が積極的に行っていることは、これらが放課後だけではなく、学校内に必要な教育インフラの一端を担えないかということです。

今回、新たな挑戦として、学校の先生方向けにアクティブ・ラーニング教材を、共同開発し、弊社のスタディサプリのプラットフォームを開放することとしました。このような取組を積み重ね、日本、そして、世界の学びの向上に貢献していきたいと思っています。



登壇者プロフィール

埼玉県教育委員会教育長 関根 郁夫

昭和53年3月北海道大学理学部卒業。同年4月、埼玉県立春日部東高校教諭となる。以来、県立浦和高校、県教育局、市立川口高校などを経て、県立志木高校長、県教育局高校教育指導課長を歴任。平成21年4月、県立浦和高校の第28代校長に就任し、平成25年3月に同校を退職。4月から県教育委員に就く。平成25年7月埼玉県教育委員会第18代教育長に就任

国立教育政策研究所 フェロー 白水 始

2000年から中京大学情報科学部助手、情報理工学部准教授を務め、2012年度より国立教育政策研究所総括研究官に異動。2016年度より協調学習に基づく授業づくりと教材・子ども理解を全国の先生方と共に行う東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構（CoREF）の機構長を務める。「キー・コンピテンシー」の改訂版を考える「OECD Education 2030」の一員。今後の教育のための授業法、評価、ICT活用、教師支援を一体的に進める。

教育界における『2020年大学入試改革』とは？

現在の中学2年生が受験する、2020年度の大学入試制度が改革されること。大学入試センター試験が廃止され、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」が導入されます。このテストは、知識の「量」が重視されてきたといわれる従来のテストに代わり、知識だけでなく、思考力や判断力、表現力を一層重視するなど「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜へ改善されるといわれています。

アクティブ・ラーニングの視点について

「アクティブ・ラーニング」の視点は、知識が生きて働くものとして習得され、必要な力が身に付くことを目指すもの。知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を行う。①対話的・②主体的で③深い学び、の三つが「アクティブ・ラーニング」の視点。特に「深い学び」こそが質の高い理解に不可欠。（「教育の強靱化に向けて（文部科学大臣メッセージ）」（平成28年5月10日）より）

スタディサプリーについて

“世界の果てまで、最高のまなびを届けよう”をコンセプトに、教育環境格差の解消を目指し2011年にスタートした『スタディサプリー』。実力派講師による講義動画5000本以上が月額980円（税抜）で見放題のオンライン講義動画。2015年度は25万人（累計有料会員）が利用。また、学校教育のサポートツールとしても、高校においては全国5,000校のうち700校、小中学校においても20の自治体、50の小中学校に導入。高校講座・大学受験講座は、5教科9科目と21世紀型教育の講義動画が3000講義以上。

○URL <https://studysapuri.jp/>

